

		達成度	達成度	学校達成度評価	平均	関係者評価	学校関係者評価コメント	
1. 本校ならではの魅力づくり		達成度	達成度	学校達成度評価	平均	関係者評価	学校関係者評価コメント	
部・学年等の実践内容	① 正確な情報発信	4月～9月	10月～3月	年間				
	教務部	観点別評価の実施に伴う問題点等を教科代表者会等を通じて明らかにし、その改善に努める。新入生オリエンテーションで、評価の方法について、概要を説明する。	5	4	4	3.7	3.8	
	生徒指導部	北高生として守るべき事項の常時指導	4	3	4			
	進路指導部	学力向上委員会、進路検討会を通して、模試・実力考査等の受験姿勢や・学習状況・成績の分析とその効果的な活用につなげる。	3	4	4			
	環境保健部	推薦基準の検証と安易な推薦受験の抑制、生徒の特性を生かした受験指導の研究	3	3	3			
	情報企画部	定期健康診断後の指導の徹底及び保護者との連携を図る。 自動採点システムを用いることにより、正確で迅速な採点業務を可能にし、働き方改革に貢献する。	4	4	4			
	2学年	ホームページや宮崎県教育委員会Twitterを用いて、学校行事や教育活動を効果的に配信し、保護者・地域の信頼を得るように務める。	2	3	3			
	サイエンス科	生徒の進路実現に向けて、大学入試の研究を行い、積極的に情報を提供する。	3	4	3			
		各学年に目標値を設定する。	4	3	4			
		② 特色ある教育活動の推進	4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	生徒指導部	登校指導ならびに下校指導	4	4	4			4.4
	教育開発部	S S H事業の円滑な運営と推進	5	5	5			
		地域探究（普通科の探究活動）の充実	4	5	4			
		科学探究（サイエンス科の探究活動）の充実	5	5	5			
		国際交流の充実	4	5	5			
		広報・普及活動の充実	4	4	4			
	1学年	基礎学力の定着を図るために家庭における学習習慣の確立は不可欠なため、教科書や授業ノートの見直し、学校から出される厳選された課題を丁寧に行う習慣を身に付けさせる。	3	4	4			
		日常における読書習慣の確立のために、朝の読書、図書館の活用や調べ学習の設定等を行う。	4	3	3			
	2学年	科学人材育成の拠点校として、「探究的視点」を包含する問いや発表による思考力・表現力の育成を図るとともに新たな発見をし、既成概念にとらわれることのない新たな価値を生み出す生徒を育成する。	4	4	4			
		表現力の育成を図るとともに、既成概念にとらわれることなく新たな価値を生み出す生徒を育成する。	4	4	4			
3学年	科学人材育成の拠点校として、「探究的視点」を包含する問いや発表による思考力・表現力の育成を図るとともに、新たな発見をし、既成概念にとらわれることのない新たな価値を生み出す生徒を育成する。	4	4	4				
サイエンス科	デザイン思考で独創的なテーマを設定する。	5	4	5				
	I C T（1人1台端末）を活用し、研究を加速化する。 わくわくサイエンス教室を年2回行い、サイエンス科で行っている活動を広く広報する。	5	5	5				

・大学受験や共通テストの出題傾向なども先生方は分析されていることと思いますので、低学年から生徒自身が受験をより具体的に意識できるように継続してアプローチしていただけたらと思います。  
模擬試験の結果からみる進路状況等、先生方が過去の事例からどう分析しているか等の発信をすると、生徒はより関心を示すのではないかと思います（すでに実施されている先生もいらっしゃるかと思います）。  
・評議員会でも申し上げた通り、PR、特にHPの充実は課題だと感じました。  
・発信（情報）の課題がありますが、魅力ある学校作りに日々尽力されていることに感謝します。

・参観日に廊下に図書室が推薦する図書が陳列されていました。しかも多様なジャンルが並んでおり、主体的な学びや情報を得る機会となるとよいと思い、素晴らしい取り組みと思いました。  
・普通科での探究活動の活性化を期待します。  
・大学と連携した探究活動を実施するなど地域資源の活用もいかがでしょうか。  
・北高中心にMSECフォーラムを開催するなど、今後さらに期待できると感じています。  
・国際交流を含めた探究活動に一定の成果があります。コロナ明けではありますが、活動の更なる充実に尽力下さい。

③ 安心・安全な環境保持		4月～9月	10月～3月	年間	4.0	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも生徒たちは目を見て気持ちの良い挨拶をしてくれます。</li> <li>・トイレは古いですが、開校日には綺麗に掃除されています。</li> <li>・南海トラフ地震を想定した防災訓練や備蓄等の整備をお願いしたいです。</li> <li>・ヘルメット着用、生徒の安全お取組として重要だと感じました。</li> </ul>	
部・学年等の実践内容	生徒指導部	校内の活動時間の確認と遵守	4	4				4
		教室周辺の安全点検の実施	4	4				4
		部室ならびに部活動における安全点検の実施	4	4				4
		危機管理マニュアルに基づいた日常からの備え	4	4				4
		スマホ・タブレットを使用する際の安全教育	4	4				4
		生徒の健康管理	5	5				5
		安心して授業を受けることのできる環境整備	4	3				4
		安心して部活動に専念することができる環境づくり	4	4				5
	アンケートやアセス調査の活用・いじめの未然防止	4	4	4				
	図書部	教育相談部や教育支援コーディネーターと連携し、生徒の「心の居場所」として活用する。	4	4				4
環境保健部	トイレ清掃を、保健衛生の観点から、日常的に指導する。	3	3	3				
	定期健康診断の完全実施を目指す。	5	5	5				
	生徒の実態に応じた保健指導・健康教育の推進に努める。	4	4	4				
	手指の消毒等の徹底を図る。	3	3	3				
	教室の換気など感染予防の指導に努める。	4	4	4				
職場の執務環境の整備に努める。	4	3	4					
事務部	節電、ゴミ減量、グリーン購入を推進する。	3	3	3				
④ 地域・PTAとの連携		4月～9月	10月～3月	年間	3.7	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験学習以外でも、ボランティア活動の一環として地域の商業施設や企業とふれあうとなお良いと思います。また、そのような活動をされているのであれば、生徒さんの活動の様子を動画や写真媒体等でPRされると地域にも育まれる北高生というPRができるかと思います。</li> <li>・外部との連携は重要なことだと思います。さらに外に開かれた北高となるよう願っています。</li> <li>・PTAとの関わりが年々、薄くなりつつありますが、先生方、保護者が連携し、生徒のサポートができることを望みます。</li> </ul>	
部・学年等の実践内容	生徒指導部	校内の活動時間の確認と遵守	4	4				4
		危機管理マニュアルに基づいた日常からの備え	4	4				4
	図書部	保護者の図書館利用や園児への読み聞かせを行う。	4	4				4
	渉外厚生部	PTA活動への理解を深めてもらうために、PTA総会への保護者の参加が100%になるように促す。	3	4				4
		多様化する家庭環境に配慮しながら、各種PTA活動への自主的な参加をお願いする。	4	4				4
		懇親会や講演会、視察等の立案・計画・実施を通して、PTA活動に対する保護者の満足度を更に高める工夫をする。	3	3				3
		所属する保護者からの各種活動に対する意見を集約し、以降の活動に反映させ、活動の質を更に高めていく。	4	4				4
	環境保健部	地域・保護者との連携を深める学校保健委員会を目指す。	3	3				3
		地域と連携して防災意識の向上に努める	3	3				3
	教育開発部	校外の団体（自治会や企業など）との連携を図り、内容を充実させる	3	3	3			
情報企画部	校務支援システムを用いて、部活動や学級役員、住所や保護者の緊急連絡先などの生徒情報を管理する。	3	3	3				
	情報ツールを用いて、担任と保護者の連絡を密にし生徒の情報や成績を共有する。	3	4	4				
2学年	生徒を理解し、保護者との連携を深めるために、適宜、二者面談や三者面談を実施する。	5	5	5				

部・学年等の実践内容	⑤ 広報活動の充実		4月～9月	10月～3月	年間	4.0	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNSを活用した広報活動もご検討されるとどうでしょうか。HP以外にも中高生やその保護者が良く活用するInstagramも導入すると効果的だと思います。</li> <li>・ 高校によっては、学校のInstagramで生徒が教員と共に発信しているものもあり、学校の雰囲気や生徒の様子が良くわかるものもあります。</li> <li>・ 北高のHPが更新されていないのが残念です。広報活動には予算と人気が必要と感じております。積極的な広報活動を期待しております。</li> <li>・ コロナ明けではありますが、保護者を通じ、様々な行事を実施し、更なる活動の質を高めていただきたい。</li> </ul>
	生徒指導部	危機管理マニュアルに基づいた日常からの備え	4	4	4			
	図書部	ホームページの北校LIBRARYに最低月1回は図書館情報を掲載する。なるように促す。	3	4	3			
	渉外厚生部	多様化する家庭環境に配慮しながら、各種PTA活動への自主的な参加をお願いする。	3	4	4			
		懇親会や講演会、視察等の立案・計画・実施を通して、PTA活動に対する保護者の満足度を更に高める工夫をする。	4	4	4			
		所属する保護者からの各種活動に対する意見を集約し、以降の活動に反映させ、活動の質を更に高めていく。	3	3	3			
	教育開発部	ホームページ・ブログ等を積極的に活用し、広報活動を充実させる	4	4	4			
		プレスリリースを積極的に行い、報道機関による広報を充実させる	5	5	5			
情報企画部	ホームページや宮崎県教育委員会Twitterを用いて、学校行事や教育活動を効果的に配信し、保護者・地域の信頼を得るように務める。	2	3	3				
サイエンス科	わくわくサイエンス教室を年2回行い、サイエンス科で行っている活動を広く広報する。	5	5	5				
	サイエンス科独自パンフレットおよびDVD・通信を作成し、様々な広報の場面で活用する。	5	5	5				
2.	確かな学力の保持		達成度	達成度	校達成度評	平均	関係者評価	学校関係者評価コメント
部・学年等の実践内容	⑥ わかる授業・力のつく授業の実践		4月～9月	10月～3月	年間	4.0	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の反応や成績から分析し、ICTを活用した授業の評価については学校側としてどう評価しているかが外部に伝わるとよいと思います。ただし、授業の様子を拝見すると先生方は様々な工夫しながらICTを活用されている様子が窺えました。</li> <li>・ 先生方の授業研究や教員評価も重要と考えます。</li> <li>・ 学校開放の際、一部の授業を見学いただきましたが、生徒たちの進研な学ぶ態度に感心しました。</li> <li>・ 平均的な学力向上があるが、結果や自分の実力など一人一人関心を高め、貪欲に臨んでもらいたい。</li> </ul>
	教務部	授業方向上のために指導教諭と連携し、ICT機器の活用推進と授業研究・研修の計画を立て実行する。他の先生の授業を参観する機会をつくる。	4	4	4			
	生徒指導部	安心して授業を受けることのできる環境整備	4	3	4			
	進路指導部	授業の充実と自宅学習習慣の確立による基礎学力の定着	3	4	4			
	情報企画部	教科指導にICTを活用することで、生徒への興味・関心を高め、分かりやすい授業を実現する。	4	4	4			
	1学年	「授業が第一」を意識させ、「わかる授業」、「力のつく授業」を展開すると共に、理解度を高めるためにICT機器の活用を効果的に行う。	4	4	4			
	2学年	生徒が授業に集中して臨み、学習内容の理解と定着を図れるよう、授業研究を充実させ、図書館やICTの適切な活用を行うとともに、授業の中で生徒の意識改革を目指す。	3	4	4			
	3学年	生徒の状況を見極め、授業や課題の工夫を図り、学習に対する自信を持たせるとともに、大学入学共通テストで求められる力（思考力・判断力・表現力・読解力等）の育成に取り組む。	4	4	4			

⑦ 個に応じた学習機会の設定		4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	教務部	大学受験に対応するため、3年次のカリキュラムに情報を設定科目として1単位設ける。 「学習の記録」等の活用を図り、主体的学習の確立と家庭学習の質と量を向上させる。	5	4	5	4.2	4.1
		出欠状況や学習の理解度を的確に把握し、欠席・遅刻の多い生徒や学業不振生徒については、学年・教育相談担当と連携しながら早期に対応する。	3	4	3		
		教室周辺の安全点検の実施	4	4	4		
	生徒指導部	合理的配慮の必要な生徒への対応	4	4	4		
		不登校生徒への組織的な対応の実現	5	5	5		
		多様な図書や資料を揃え、生徒が静かに読書にふけることができる空間を整え提供する。	5	5	5		
	図書部	国際交流スタークラブで、週1回のランチミーティングや国際交流への参加促進を積極的に行い、国際化に対応できる生徒を育成する	5	3	4		
	教育開発部	基礎学力の定着を図るために家庭における学習習慣の確立は不可欠なため、教科書や授業ノートの見直し、学校から出される厳選された課題を丁寧に学習する習慣を身に付けさせる。	3	4	4		
		日常における読書習慣の確立のために、朝の読書、図書館の活用や調べ学習の設定等を行う。	4	3	3		
		上位者層の更なる成績向上と意識高揚を図るために、北辰タイム（放課後講座や上位者講座等）の進路企画を柔軟に活用する	4	4	4		
	1学年	部活動においては上位（全国大会出場等）、学習については難関大学を含めた国公立大学進学等を目指し、そのための努力を惜しまない生徒を育成する	3	4	4		
		家庭学習習慣確立のために、「学習の記録」「学習計画表」等を活用して生徒の実態を把握し、適切なアドバイスを行うとともに、学級や学年で切磋琢磨する雰囲気を醸成する。	4	4	4		
		課題の意義を説き、学習方法を具体的に提示し、課題への取り組みを徹底させる。	4	4	4		
	2学年	「上位者層の意識と学力の向上、中間・下位層の基礎基本の徹底のために、放課後講座の工夫を図り、個別指導や添削指導にも取り組む。	4	5	4		
		部活動では上位（全国・九州大会出場等）、学習については難関大学を含めた国公立大学進学等を目指し、そのための努力を惜しまない生徒を育成する。	4	4	4		
		調査や模試の結果や宅習調査の結果等をもとに生徒の実態を把握し、個々の生徒に適切なアドバイスや激励を行う。	4	4	4		
3学年	「上位者層の更なる学力向上と下位層の基礎基本の徹底のために、放課後講座の工夫を図り、個別指導や添削指導に取り組む。	5	4	4			
	部活動では上位（全国・九州大会出場等）、学習については難関大学を含めた国公立大学進学等を目指し、そのための努力を惜しまない生徒を育成する。	4	4	4			
	教科担任会・進路検討会を通して、生徒の学力の現状を把握・共有し、今後の指導に活かす。	5	4	5			
サイエンス科							

・現在はアプリを使いながら、同級生と切磋琢磨する姿も見られます。ICTを活用した学習記録(Glassiなどを活用)も、生徒自身の日々の学習の省察の助けになるのではないかと思います。  
また、ICT化により情報連携がスムーズになることで、業務効率化だけではなく、保護者と学校との学習面での連携にも繋がるのではと思います。  
・課外に頼らない学力の向上のため、学ぶ意欲をどう刺激するかが鍵だと思います。  
・北辰タイムの導入で学力向上へとつながることを期待します。

部・学年等の実践内容	⑧ 理解度を高めるICT機器の活用		4月～9月	10月～3月	年間	4.1	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる授業・力がつく授業の実践」の部分と同様意見です。</li> <li>・ICT機器の活用状況について、次年度さらにお聞きできればと思います。</li> <li>・ICTの安全教育メリットを最大限活かし、学力向上の一つのツールとして内容の充実を図ってください。</li> </ul>
	教務部	授業力向上のために指導教諭と連携し、ICT機器の活用推進と授業研究・研修の計画を立て実行する。他の先生の授業を参観する機会をつくる。	4	4	4			
	生徒指導部	スマホ・タブレットを使用する際の安全教育	4	4	4			
	教育開発部	1人1台の端末やDSの学習内容を積極的に活用し、内容の充実を図る	4	4	4			
	情報企画部	教科指導にICTを活用することで、生徒への興味・関心を高め、分かりやすい授業を実現する。 プロジェクターやネットワークをはじめとする学校のICT環境を整備し、すべての教室でICT活用をした授業ができるようにする。	4	4	4			
	1学年	「授業が第一」を意識させ、「わかる授業」、「力がつく授業」を展開すると共に、理解度を高めるためにICT機器の活用を効果的に行う。	3	4	4			
	2学年	生徒が授業に集中して臨み、学習内容の理解と定着を図れるよう、授業研究を充実させ、図書館やICTの適切な活用を行うとともに、授業の中で生徒の意識改革を目指す。	4	4	4			
	3学年	生徒の状況を見極め、授業や課題の工夫を図り、学習に対する自信を持たせるとともに、大学入学共通テストで求められる力（思考力・判断力・表現力・読解力等）の育成に取り組む。	4	4	4			
サイエンス科	ICT（1人1台端末）を活用し、研究を加速化する。	5	5	5				
部・学年等の実践内容	⑨ 探求的視点を包含する授業の構築		4月～9月	10月～3月	年間	3.9	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素晴らしい取り組みをされていると思います。普通科への探究活動の導入の成果を楽しみにしています。普通科でも探究活動に力を入れていることも世間にもっと認知されたいと思います。広報の強化でしょうか。</li> <li>・「探求的視点」は、生徒の貪欲に物事に向かい合う意欲を増強させ、それが積極性、学習意欲の向上や進路への目標の設定にも効果をもたらすと思います。是非、「問い」を持ち、それを探求する生徒の育成を継続して頂きたいです。</li> </ul>
	生徒指導部	スマホ・タブレットを使用する際の安全教育	4	4	4			
	図書部	全職員は、最低1年に1回、司書と打ち合わせて図書館閲覧室を使って授業をする。	2	3	3			
	教育開発部	開発した指導内容や教材を整理し、R6年度以降に受けて再構築する	3	4	4			
		サイエンス科の探究活動で開発した教材や指導法を普通科へ導入する	4	4	4			
	1学年	科学人材育成の拠点校として、「探求的視点」を包含する問いや発表による思考力・表現力の育成を図るとともに新たな発見をし、既成概念にとらわれることのない新たな価値を生み出す生徒を育成する。	4	4	4			
	2学年	生徒が授業に集中して臨み、学習内容の理解と定着を図れるよう、授業研究を充実させ、図書館やICTの適切な活用を行うとともに、授業の中で生徒の意識改革を目指す。 科学人材育成の拠点校として、「探求的視点」を包含する問いや発表による思考力・表現力の育成を図るとともに、既成概念にとらわれることなく新たな価値を生み出す生徒を育成する。	3	4	4			
	3学年	生徒の状況を見極め、授業や課題の工夫を図り、学習に対する自信を持たせるとともに、大学入学共通テストで求められる力（思考力・判断力・表現力・読解力等）の育成に取り組む。 科学人材育成の拠点校として、「探求的視点」を包含する問いや発表による思考力・表現力の育成を図るとともに、新たな発見をし、既成概念にとらわれることのない新たな価値を生み出す生徒を育成する。	4	4	4			

⑩ 「探究」による思考力・育成表現力の育成		4月～9月	10月～3月	年間				
部・学年等の実践内容	教育開発部	開発した指導内容や教材を整理し、R6年度以降に受けて再構築する	3	4	4	4.4	4.3	
		3年間を見通した本校独自の探究活動の計画をより上げる	4	4	4			
		DS・ST・ES・PT・FW・MFの指導方法を完成させる	5	5	5			
		サイエンス科の探究活動で開発した教材や指導法を普通科へ導入する	4	4	4			
	1学年	科学人材育成の拠点校として、「探究的視点」を包含する問いや発表による思考力・表現力の育成を図るとともに新たな発見をし、既成概念にとらわれない新たな価値を生み出す生徒を育成する。	4	4	4			
	2学年	科学人材育成の拠点校として、「探究的視点」を包含する問いや発表による思考力・表現力の育成を図るとともに、既成概念にとらわれない新たな価値を生み出す生徒を育成する。	4	4	4			
	3学年	生徒の状況を見極め、授業や課題の工夫を図り、学習に対する自信を持たせるとともに、大学入学共通テストで求められる力（思考力・判断力・表現力・読解力等）の育成に取り組む。	4	4	4			
		科学人材育成の拠点校として、「探究的視点」を包含する問いや発表による思考力・表現力の育成を図るとともに、新たな発見をし、既成概念にとらわれない新たな価値を生み出す生徒を育成する。	4	4	4			
	サイエンス科	デザイン思考で独創的なテーマを設定する。	5	4	5			
		企業や専門家、各種発表会に積極的に参加する。	5	5	5			
わくわくサイエンス教室を年2回行い、サイエンス科で行っている活動を広く広報する。		5	5	5				
3.	自主自立の精神の育成	達成度	達成度	校達成度評	平均	関係者評価	学校関係者評価コメント	
⑪	規律に基づく生活習慣の確立	4月～9月	10月～3月	年間				
部・学年等の実践内容	教務部	「学習の記録」等の活用を図り、主体的学習の確立と家庭学習の質と量を向上させる。	3	4	3	3.9	4.0	・校則の在り方が変わりつつありますが、「守るべきことの重要性」をしっかりと生徒に意識して学校生活を楽しくしてもらいたい。
		生徒指導部	登校指導ならびに下校指導	4	4			
	あいさつ指導など、生徒職員の良好な関係を築くためのアプローチ		4	4	4			
	校内の活動時間の確認と遵守		4	4	4			
	制服の着用と付随する規則の確認		4	4	4			
	「北高生として守るべきこと」の常時指導		4	3	4			
	校則の見直しと議論・調整場の設定		3	4	4			
	環境保健部	教室や廊下の棚の整理整頓を、環境美化の観点から、日常的に指導する	3	3	3			
		清掃の予鈴と同時に取りかかる準備ができるよう指導を行う	4	3	4			
	情報企画部	情報ツールを活用し、日々の健康観察や宅習調査を行い生徒の生活状況を把握する	3	4	4			
1学年	学校や社会において良好な人間関係を築く基盤となるマナーや礼法に対する指導を継続的に行う	4	3	4				
	時間や約束を守り、清掃に真摯に取り組むなど、学校生活や社会において求められる基本的な力の育成指導を継続的に行う	5	5	5				
	下級生の良き手本となるよう、普段の学校生活すべてにおいて最上級生としての自覚を持った言動を意識させる	5	5	5				
サイエンス科	通級指導担当と連携し、特性のある生徒の早期把握と手厚い早期対応に努める	3	3	3				

⑫ 自治活動による愛校心の高揚		4月～9月	10月～3月	年間	4.0	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の見直しなどの際には、生徒の思いや主張に対して、学校側が真摯に対応されていると思います。</li> <li>・引き続き、生徒主体で行事を運営するなど、生徒の自主性を重んじた教育を期待します。指示を待つだけの人間にならないよう、将来の人材としての育成も引き続きお願いします。</li> <li>・とにかく「楽しい北高」「わくわくする北高」となるため、時間はかかっても生徒中心の学校づくりを目指していただければと思います。</li> <li>・時代に沿った規則の在り方が必要である。</li> <li>・北高生としての誇りを持ち、楽しい北高を発信してほしい。</li> </ul>
生徒指導部	制服の着用と付随する規則の確認	4	4	4			
	部室ならびに部活動における安全点検の実施	4	4	4			
	行事の計画立案と生徒による運営を支援	3	3	3			
	行事を通して生徒のリーダー性を醸成	3	4	4			
	校則の見直しと議論・調整の場の設定	3	4	4			
	生徒会役員改選の選挙を通して、主権者教育を実施	4	4	4			
図書部	「北圖」の発行、星琳祭・ビブリオバトルなどイベントの企画運営を生徒主体で行う	5	5	5			
	「図書カフェ」ポーラスター開催など、読書以外のイベントを行って人を集める	3	3	3			
環境保健部	自主活動による生徒美化委員会の活性化を図る	3	3	3			
1学年	学校行事や学級活動、部活動やボランティア等で生徒が主体的に活躍できる場を多く設定して、取り組む姿勢や活動実績を適切に評価する	4	4	4			
	清掃活動や行事の準備・後片付け等に熱心に取り組ませ、奉仕的精神の育成を図る	4	3	4			
	宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していける生徒を育成する	4	4	4			
2学年	生徒が学校行事や学年・学級活動等で主体的に活躍できる場を多く設定する	4	4	4			
	宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していける生徒を育成する	4	4	4			
3学年	学校行事、学級活動、部活動等に積極的に関わり、「つくる立場」「まとめる立場」の意識をもたせて活動させる	5	5	5			
	清掃活動や奉仕活動、行事の準備・後片付け等に熱心に取り組ませ、奉仕的精神の育成を図る	4	4	4			
	下級生の良き手本となるよう、普段の学校生活すべてにおいて最上級生としての自覚を持った言動を意識させる	5	5	5			
	宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していける生徒を育成する	4	4	4			
サイエンス科	1年生に宿泊研修を実施したり、サイエンス科集会を学期1回行ったりすることで、帰属意識や進路・学習・探究に関する意識の高揚を図る	4	4	4			

⑬	公共心と道徳観の育成	4月～9月	10月～3月	年間				
部・学年等の実践内容	生徒指導部	登校指導ならびに下校指導	4	5	5	4.2	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼儀正しく、丁寧な生徒さんが多いと感じます。他校からも北高生の悪い評価や噂を聞くこともありません。</li> <li>・生徒さんは優等生タイプが多い中特にリーダーシップ性を発揮できると思います。</li> <li>・学習だけでなく人間性を重んじる関わりもいただきたいと思います。学力だけの人材はもはや社会では通用しないと思いますので社会の一員としての自覚を持ち、他者への関心を持ち、協働できる生徒育成も期待しております。</li> <li>・奉仕的精神の育成とボランティア等への積極的参加を意識してもらいたい。</li> </ul>
		アンケートやアセス調査の活用・いじめの未然防止	4	4	4			
	環境保健部	清掃の仕方を根気よく指導し、工夫して行う	4	4	4			
	1学年	学校や社会において良好な人間関係を築く基盤となるマナーや礼法に対する指導を継続的に行う	4	4	4			
		清掃活動や行事の準備・後片付け等に熱心に取り組ませ、奉仕的精神の育成を図る 宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していきける生徒を育成する	4	4	4			
	2学年	時間や約束を守り、清掃に真摯に取り組むなど、学校生活や社会において求められる基本的な力の育成指導を継続的に行う	5	5	5			
		部活動やボランティア活動、課外活動等への積極的参加を促すとともに、清掃活動や行事の準備・後片付け等に熱心に取り組ませる	4	4	4			
		宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していきける生徒を育成する	4	4	4			
	3学年	清掃活動や奉仕活動、行事の準備・後片付け等に熱心に取り組ませ、奉仕的精神の育成を図る	4	4	4			
		宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していきける生徒を育成する	4	4	4			
	サイエンス科	通級指導担当と連携し、特性のある生徒の早期把握と手厚い早期対応に努める	4	4	4			
		協調性やコミュニケーション力の養成を目的に、ピアサポート活動を学期1回行う。	4	4	4			



⑭ 自己肯定感（部活動・各種活動の推奨）		4月～9月	10月～3月	年間				
部・学年等の実践内容	生徒指導部	部室ならびに部活動における安全点検の実施	4	4	4	4.1	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動も例年より活性化していることと思います。文武両道で活躍を期待しています。</li> <li>・生徒へのアンケート調査等の結果は、保護者や生徒へフィードバックはどうされていますか？アンケート結果の有効な活用を期待します。</li> <li>・北高の「うり」「特色」とは何かでしょうか。「北高生として自覚と・・・」とありますが、生徒にどのような北高生の誇りを持たせたいか、また、生徒自身は北高生としての誇りをどのように持ちたいと思っているのでしょうか。全職員と全生徒が貴学の特色と言えばこれ、と言える「自覚」と「誇り」が明確である良いと思います。また、これが学校のPRにもなるかと思えます。SSH以外でもです。</li> <li>・陸上部中心に部活動の好成績は生徒の自信にもつながるかと思えます。さらに活発化することを願っています。</li> </ul>
		行事の計画立案と生徒による運営を支援	3	3	3			
		行事を通して生徒のリーダー性を醸成	3	4	4			
		安心して部活動に専念することができる環境づくり	4	4	4			
		不登校生徒への組織的な対応の実現	5	5	5			
		アンケートやアセス調査の活用・いじめの未然防止	4	4	4			
	図書部	「北圖」の発行、星琳祭・ビブリアバトルなどイベントの企画運営を生徒主体で行う	5	5	5			
		「図書カフェ」ポーラスター開催など、読書以外のイベントを行って人を集める	3	3	3			
	1学年	学校行事や学級活動、部活動やボランティア等で生徒が主体的に活躍できる場を多く設定し、取り組む姿勢や活動実績を適切に評価する	4	4	4			
		部活動においては上位（全国大会出場等）、学習については難関大学を含めた国公立大学進学等を目指し、そのための努力を惜しまない生徒を育成する	4	4	4			
		宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していける生徒を育成する	4	4	4			
		生徒が学校行事や学年・学級活動等で主体的に活躍できる場を多く設定する	4	4	4			
	2学年	部活動やボランティア活動、課外活動等への積極的参加を促すとともに、清掃活動や行事の準備・後片付け等に熱心に取り組ませる	4	4	4			
		部活動では上位（全国・九州大会出場等）、学習については難関大学を含めた国公立大学進学等を目指し、そのための努力を惜しまない生徒を育成する	4	4	4			
		宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していける生徒を育成する	4	4	4			
		生徒が学校行事や学年・学級活動等で主体的に活躍できる場を多く設定する	4	4	4			
3学年	学校行事、学級活動、部活動等に積極的に関わり、「つくる立場」「まとめる立場」の意識をもたせて活動させる	5	5	5				
	部活動では上位（全国・九州大会出場等）、学習については難関大学を含めた国公立大学進学等を目指し、そのための努力を惜しまない生徒を育成する	4	4	4				
	宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していける生徒を育成する	4	4	4				
サイエンス科	企業や専門家、各種発表会に積極的に参加する。	5	5	5				
	協調性やコミュニケーション力の養成を目的に、ピアサポート活動を学期1回行う。	4	4	4				
⑮ 対話を軸とした自尊感情の育成		4月～9月	10月～3月	年間				
部・学年等の実践内容	生徒指導部	行事を通して生徒のリーダー性を醸成	3	4	4	4.0	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と生徒が良く語っている場面を見かけます。また、校則の見直しの際には生徒の意見を十分に傾聴し、生徒の主張も尊重した上で柔軟な対応がされていると感じました。</li> <li>・社会に出たときに対応できる人材育成を行っていただきたい。</li> </ul>
		校則の見直しと議論・調整の場の設定	3	4	4			
		生徒会役員改選の選挙を通して、主権者教育を実施	4	4	4			
	環境保健部	学年単位で清掃時の見回りをおこない、濃淡のない清掃指導を行う	3	3	3			
		生徒を理解し、保護者との連携を深めるために、適宜、二者面談や三者面談を実施する	5	5	5			
	2学年	適宜、二者面談や三者面談を実施し、生徒の内面や実態の把握と保護者との連携を図り、適切なアドバイスや激励を行い、進路実現に向けて本気にさせる	4	4	4			
	3学年	適宜、二者面談や三者面談を実施し、生徒の内面や実態の把握と保護者との連携を図り、適切なアドバイスや激励を行い、進路実現に向けて本気にさせる	4	4	4			
	サイエンス科	通級指導担当と連携し、特性のある生徒の早期把握と手厚い早期対応に努める	4	4	4			

4. 個に応じた進路支援		達成度	達成度	校達成度評	平均	関係者評価	学校関係者評価コメント	
⑩ 対外模試での目標値の設定		4月～9月	10月～3月	年間				
部・学年等の実践内容	生徒指導部	安心して授業を受けることのできる環境整備	4	3	4	3.7	3.9	・学力向上、大学受験に対する学校側の努力は窺えました。個別的な目標の設定へのサポートをさらに期待します。
	進路指導部	学力向上委員会、進路検討会を通して、模試・実力考査等の受験姿勢や学習状況・成績の分析とその効果的な活用に繋げる	3	3	3			
	1 学年	二者面談・三者面談を適宜行い、生徒の実態を把握し、適切なアドバイスをを行う。生徒の未知なる可能性を信じ、より高い目標を掲げて努力を重ねる意欲を持たせるための仕掛けを行う	4	4	4			
		上位者層の更なる成績向上と意識高揚を図るために、北辰タイム（放課後講座や上位者講座等）の進路企画を柔軟に活用する	4	4	4			
	2 学年	系統的な進路学習を計画し、早めの進路目標決定を目指すとともに、模試の目標設定を行い、目標を意識した学習、模試後の徹底した分析とていねいな振り返りを行う	4	4	4			
	3 学年	生徒の状況を見極め、授業や課題の工夫を図り、学習に対する自信を持たせるとともに、大学入学共通テストで求められる力（思考力・判断力・表現力・読解力等）の育成に取り組む	4	4	4			
		上位者層の更なる学力向上と下位層の基礎基本の徹底のために、放課後講座の工夫を図り、個別指導や添削指導に取り組む	5	4	4			
サイエンス科	教科担任会・進路検討会を通して、生徒の学力の現状を把握・共有し、今後の指導に活かす	4	4	4				
	サイエンス科単独での難関大クラブを設置し、上位者指導を行う	2	2	2				
⑪ 学力推移の検証と情報の共有		4月～9月	10月～3月	年間				
部・学年等の実践内容	進路指導部	授業の充実と自宅学習習慣の確立による基礎学力の定着	3	4	4	4.1	4.1	・朝課外の廃止や、北辰タイムの活用は、生徒の生活や学力、進路状況にどのように影響したのでしょうか。主体的、かつ効率的な学習習慣の構築と学力向上に繋がっていると良いです。 ・放課後講座を活かし、学力向上につなげてください。目標を意識した学習が大事と考えます。
		放課後講座(北辰タイム)・錬成講座の検証と工夫・改善により、学力向上に繋げる	4	4	4			
	情報企画部	学力向上委員会、進路検討会を通して、模試・実力考査等の受験姿勢や学習状況・成績の分析とその効果的な活用に繋げる	3	4	4			
		校務支援システムを用いて、定期考査・出席状況などの成績を一元管理し、生徒指導や指導要録、調査書の作成などあらゆる校務に活用する	4	5	5			
	1 学年	二者面談・三者面談を適宜行い、生徒の実態を把握し、適切なアドバイスをを行う。生徒の未知なる可能性を信じ、より高い目標を掲げて努力を重ねる意欲を持たせるための仕掛けを行う	4	4	4			
		上位者層の更なる成績向上と意識高揚を図るために、北辰タイム（放課後講座や上位者講座等）の進路企画を柔軟に活用する	4	4	4			
	2 学年	上位者層の意識と学力の向上、中間・下位層の基礎基本の徹底のために、放課後講座の工夫を図り、個別指導や添削指導にも取り組む	4	5	4			
		系統的な進路学習を計画し、早めの進路目標決定を目指すとともに、模試の目標設定を行い、目標を意識した学習、模試後の徹底した分析とていねいな振り返りを行う	4	4	4			
	3 学年	生徒の進路実現に向けて、大学入試の研究を行い、積極的に情報を提供する	4	3	3			
		生徒の進路実現に向けて、大学入試の研究を行い、積極的に情報を提供する	4	4	4			
サイエンス科	上位者層の更なる学力向上と下位層の基礎基本の徹底のために、放課後講座の工夫を図り、個別指導や添削指導に取り組む	5	4	4				
	教科担任会・進路検討会を通して、生徒の学力の現状を把握・共有し、今後の指導に活かす	5	4	5				

⑱ 職業観・勤労観を培う教養講座・講話の設定		4月～9月	10月～3月	年間	3.7	3.8	・社会への視野を広げ、体験を通して人間性を高める機会となると思います。今後も推進してほしいと思います。 ・教養講座や進路講演会等の成果はいかがでしょうか。講座への出席がどのように進路決定に影響したか、受験結果等から講座開催の成果が見えるのとよい良いと思いました。	
部・学年等の実践内容	進路指導部	「星琳キャリア塾」による生徒の社会的・職業的自立を促す指導	4	4				4
		「教養講座」と各学年別の「進路講演会」の実施により、進路意識を向上させる	4	4	4			
		オープンキャンパス等の紹介や参加の促進により、具体的進路先の早期決定	4	3	4			
		大学入試や小論文・面接指導に関する職員研修会の実施	3	3	3			
	1学年	生徒が適切な文理選択ができるように、教養講座やオープンキャンパス等への積極的な参加を呼び掛けるなど生徒の進路研究を支援する	4	3	3			
	2学年	教養講座、各種講演会・実験会・体験会・国際交流活動、オープンキャンパス等への積極的な参加を促し、生徒の進路意識の高揚を図る	4	4	4			
サイエンス科	1年生に宿泊研修を実施したり、サイエンス科集会を学期1回行ったりすることで、帰属意識や進路・学習・探究に関する意識の高揚を図る	4	4	4				
⑲ 面談による進学意識の向上		4月～9月	10月～3月	年間	4.0	4.0	・学力や進学意識に関しては、比較的意識が高い生徒が入学していると思います。 その分、進路に向けた教育や取り組みの面では、先生方の負担も大きいと思いますが、先生方の関わりが生徒の目標の達成にも大きく影響すると思います。全クラス、全生徒の底上げをしていただき、生徒が大学受験を目指すことを誇りにして学習できる環境・雰囲気作りの継続を期待します。 ・子どもから保護者へは伝わらない。学校から積極的に保護者へ情報発信してほしい。家庭でしっかり進路について話し合いができるよう努めてほしい。	
部・学年等の実践内容	進路指導部	進路希望調査を活用し、進路意識の高揚へ導く	4	3				3
		進路指導プランの確立のためにLHR等を活用した指導の実施	3	4				4
		推薦基準の検証と安易な推薦受験の抑制、生徒の特性を生かした受験指導の研究	4	4				4
		学力向上委員会、進路検討会を通して、模試・実力考査等の受験姿勢や学習状況・成績の分析とその効果的な活用につなげる	4	4				4
情報企画部	情報ツールを用いて、担任と保護者の連絡を密にし生徒の情報や成績を共有する	4	4	4				
1学年	二者面談・三者面談を適宜行い、生徒の実態を把握し、適切なアドバイスを行う。生徒の未知なる可能性を信じ、より高い目標を掲げて努力を重ねる意欲を持たせるための仕掛けを行う	4	4	4				
2学年	生徒を理解し、保護者との連携を深めるために、適宜、二者面談や三者面談を実施する	5	5	5				
3学年	考査や模試の結果や宅習調査の結果等をもとに生徒の実態を把握し、個々の生徒に適切なアドバイスや激励を行う	4	4	4				
	適宜、二者面談や三者面談を実施し、生徒の内面や実態の把握と保護者との連携を図り、適切なアドバイスや激励を行い、進路実現に向けて本気にさせる	4	4	4				
サイエンス科	少人数学級編成を行い、担任・副担任全員で定期的な面談を実施する	4	4	4				
⑳ 推薦入試への組織的対応		4月～9月	10月～3月	年間	4.0	4.1	特記事項なし	
部・学年等の実践内容	進路指導部	大学入試や小論文・面接指導に関する職員研修会の実施	4	4				4
		推薦基準の検証と安易な推薦受験の抑制、生徒の特性を生かした受験指導の研究	3	3				3
	2学年	系統的な進路学習を計画し、早めの進路目標決定を目指すとともに、模試の目標設定を行い、目標を意識した学習、模試後の徹底した分析とよいいな振り返りを行う	4	4				4
	3学年	生徒の進路実現に向けて、大学入試の研究を行い、積極的に情報を提供する	4	4				4
	サイエンス科	探究活動における実績を運用する	5	4	5			

5.	協働性・同僚性の高い職員		達成度	達成度	校達成度評	平均	関係者評価	学校関係者評価コメント
⑳	法令遵守を堅持する職員		4月～9月	10月～3月	年間			
学年等の実践内	教育開発部	JSTと密に連絡を取り、適切な業務遂行と予算執行を行う	5	5	5	4.3	0.1	・残念ながら教職員の活動状況が外部に分かりにくい部分があります。生徒や保護者へも伝わると先生方の取り組みに関する理解が得られると思います。自己研鑽されていることと思いますので。
	事務部	コンプライアンス意識を持って職務を遂行し、説明責任を果たす。 準公金の適正化に努めるとともに、納期内収納の促進を図る。	4	4	4			
	管理職	教育委員会からの通知文を遺漏なく職員に伝え、周知を図る。 気になる職員の言動への感度を高め、面談やフィードバックで適切な指導、支援を行う。	5	5	5			
		職員研修を通して、公務員、教員としての道徳観、倫理観の向上を促す。	4	4	4			
⑳	新たな技能・スキル獲得に意欲的な職員		4月～9月	10月～3月	年間			
学年等の実践内	図書部	マイラインサービスの活用、国立国会図書館や他の図書館の活用を実践する	3	3	3	4.2	4.1	・ICT活用は、先生方のスキルを身につけ、子供たちへフィードバックしていただきたい。
	教育開発部	各担当者が責任もって研究開発を行うとともに、部員全員で協力する 他校視察や情報収集を積極的に行い、本校のこれまでの取組をまとめる	5	5	5			
	情報企画部	タブレットを効果的に活用した指導事例の収集や、教員のICT活用指導力の向上のための職員研を行う	3	3	3			
	教育開発部	指導法についての研修を充実させ、全職員が指導できる体制を作る	4	3	4			
	情報企画部	プロジェクターやネットワークをはじめとする学校のICT環境を整備し、すべての教室でICT活用をした授業ができるようにする	4	5	5			
㉑	研修を活用し汎用的資質の向上に励む職員		4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	教務部	情報通信技術を活用し、その特長を生かすことにより、一斉指導による学び（一斉学習）に加え、子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）、子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）を実践するために、一人一台端末を利用した研究授業を実践し、情報企画部と連携し校内研修等を通して授業中での端末の利用を促進する。 年間研修計画を作成する。	3	4	4	4.0	4.1	・さまざまな研修に参加され、指導力の向上に取り組まれていると思います。研修が教育に十分に活かされることを期待します。 ・命の大切さを全員で納得するまで議論していただきたい。
		生徒指導部	人権教育に関わる職員研修の実施 生徒指導に関わる職員研修の実施	5	4			
	環境保健部	心肺蘇生法、AED講習の全職員受講を目指す	3	3	3			
	教育開発部	学期1回以上の校内研修等を通じて、全職員のSSHへの理解を得る	5	5	5			
		指導法についての研修を充実させ、全職員が指導できる体制を作る	4	4	4			
		職員会議等で研修を行い、SSH事業や探究活動、国際交流の理解を促す	4	4	4			
	情報企画部	タブレットを効果的に活用した指導事例の収集や、教員のICT活用指導力の向上のための職員研を行う	4	4	4			
管理職	『新しい研修制度』を周知し、キャリアに応じた研修の受講を推奨する。	3	3	3				
		4	4	4				

④	要支援生徒に組織的に対応できる職員		4月～9月	10月～3月	年間									
部・学年等の実践内容	生徒指導部	あいさつ指導など、生徒職員の良好な関係を築くためのアプローチ	5	5	5	4.5	4.3			・リクエスト週間の現状と効果、課題はいかがでしょうか。現在北高が抱える要支援生徒への課題をもとに今後も継続して学校の問題として対応していただきたいと思います。 ・配慮の必要な生徒の受け入れについて、以前から定評のある学校のあり方に敬意を表します。				
		生徒の健康管理	5	5	5									
		生徒指導に関わる職員研修の実施	5	5	5									
		リクエスト週間など生徒一人ひとりの意見に耳を傾ける機会の設定	3	3	3									
		合理的配慮の必要な生徒への対応	5	5	5									
		不登校生徒への組織的な対応の実現	5	5	5									
サイエンス科	通級指導担当と連携し、特性のある生徒の早期把握と手厚い早期対応に努める。	4	4	4										
管理職	一次支援、二次支援、三次支援など、段階に応じて担当者が引き継ぐ体制を構築する。	4	4	4										
⑤	人権を重んじる職員		4月～9月	10月～3月	年間									
部・学年等の実践内容	生徒指導部	あいさつ指導など、生徒職員の良好な関係を築くためのアプローチ	5	5	5	4.0	4.1			コミュニケーションの基本となるあいさつ指導や生徒指導職員研修に重点的に取り組んでいるのは素晴らしい。これまで同様に先生自身が人として人格と見識の向上に努め、手本となってください。				
		人権教育に関わる職員研修の実施	3	3	3									
		生徒指導に関わる職員研修の実施	5	5	5									
		アンケートやアセス調査の活用・いじめの未然防止	4	4	4									
	図書部	週刊「ダイバーシティ」の発刊など、人権・道徳教育との連携を行う	2	2	2									
	事務部	学校徴収金や各種証明等の事務処理に当たっては、生徒等の個人情報の扱いに万全を期する。	5	5	5									
管理職	パワーハラ・セクハラアンケート結果を検証し、留意事項の顕在化と職員の感度の向上を促す。	4	4	4										
6.	風通しのよい職場		達成度	達成度	校達成度評	平均	関係者評価	学校関係者評価コメント						
⑥	担当業務の量・質の平準化		4月～9月	10月～3月	年間									
部・学年等	教育開発部	各担当者が責任をもって研究開発を行うとともに、部員全員で協力する	5	5	5	4.3	4.0			・進学校での教員の働き方改革は非常に難しいと考えますが、個人に過度な負担がかからないよう、全職員で生徒支援の体制作りを期待します。そのような中でも先生方の生徒一人一人に対する心ある関わりには感銘を受けます。 特に受験期の先生方の取り組みの様子を拝見しますと一人一人に対して指導が行われており、生徒の立場からしても先生方は心強い見方となっています。				
		開発した指導内容や教材を整理し、R6年度以降に受けて再構築する	3	4	4									
		R6年度以降の自走化に向けて、業務の整理を行う	3	4	4									
管理職	業務単位で難易度を数値化し、個々の教職員の担う業務総量の均一化を図る。	4	4	4										
⑦	年休・休暇の弾力的な取得推奨		4月～9月	10月～3月	年間									
等の	管理職	各種会議の開催数を減らし、職員が裁量できる時間を確保する。	4	4	4	4.0	3.8							
		行事の精選や日程調整により、年休・休暇を取得しやすい環境をつくる。	4	4	4									
⑧	時間外勤務「45時間未満/月」の推進		4月～9月	10月～3月	年間									
年等の実	情報企画部	自動採点システムを用いることにより、正確で迅速な採点業務を可能にし、働き方改革に貢献する	4	4	4	3.5	4.1							
		超勤傾向の強い職員を特定し、勤務態様の改善・見直しについて話し合う場を設ける。	3	3	3									

⑳	職員間連携の強化（報・連・相の定着）		4月～9月	10月～3月	年間				
・ 学 年 等 の 実 践 内	渉外厚生部	歓送迎会等の予算の準備やその他の行事について準備の補佐をする。またできるだけ多くの職員に参加してもらい、親睦を深め	4	3	4	4.2	4.1		
	環境保健部	職員の健康相談、心の健康対策をおこない、衛生委員会の充実を図る	4	4	4				
	教育開発部	各担当者が責任をもって研究開発を行うとともに、部員全員で協力する	5	5	5				
	情報企画部	GoogleDriveや校内ポータルサイトを活用し、Webサイト上でコミュニケーションを図ることや連絡・報告ははじめ諸々の情報を共有する	4	4	4				
	管理職	問題対応は初動で決まることを周知し、管理職による情報整理の一元化を徹底する。	4	4	4				
㉑	業務全般におけるICT活用の拡充		4月～9月	10月～3月	年間				
・ 学 年 等 の 実 践 内	教務部	情報通信技術を活用し、その特長を生かすことにより、一斉指導による学び（一斉学習）に加え、子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）、子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）を実践するために、一人一台端末を利用した研究授業を実践し、情報企画部と連携し校内研修等を通して授業中での端末の利用を促進する。	3	4	4	4.3	4.1	・ICT機器活用へ置換できる業務内容を整理されることで先生方の負担は非常に軽減されることと期待しますので早急な取り組みを期待します。	
	情報企画部	校務支援システムを用いて、定期考査・出席状況などの成績を一元管理し、生徒指導や指導要録、調査書の作成などあらゆる校務に活用する	4	5	5				
	管理職	ICT機器活用へ置換できる業務内容を整理し、職場内の効率化・合理化への機運を醸成する。	4	4	4				
								部ごとの評価	
								教務部	3.9
								生徒指導部	4.2
								進路指導部	3.7
								教育開発部	4.3
								情報企画部	3.9
								図書部	3.6
								渉外厚生部	3.8
								環境保健部	3.6
								事務部	4.3
								サイエンス科	4.4
								1学年	3.9
								2学年	4.1
								3学年	4.1
								管理職	4.0